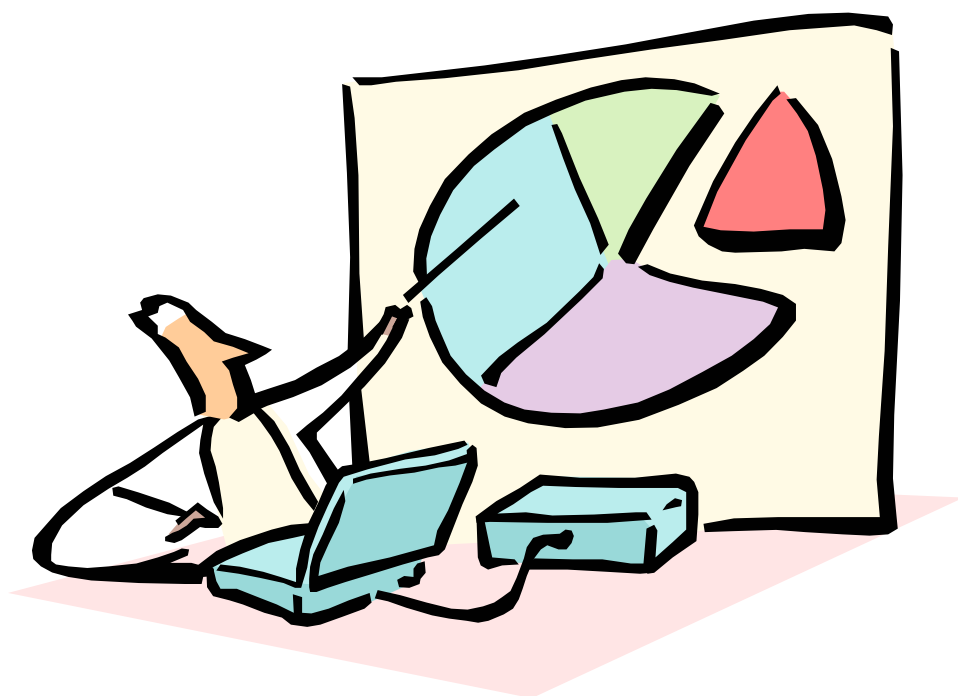


# 第十三回 院内研究発表会

## 抄録集



2006年10月28日

医療法人 小林クリニック

## 小林クリニック 第十三回 院内研究発表会 プログラム

15時～開会挨拶

### 第一部 演題発表（座長 井上理恵・スライド 清水深雪）

- |                           |        |
|---------------------------|--------|
| 1. 絶飲食患者の効果的な口腔ケアを検討して    | ○島 章子  |
| 2. キシロカインスプレーによる穿刺痛緩和の試み  | ○小川恵子  |
| 3. 透析室ってきれい？（床・シューズ編）     | ○荒川治美  |
| 4. サプリメントに対する認識           | ○浜田恵美子 |
| 5. ベッド周囲の環境整備により作業の効率化を図る | ○中島理江  |
- 質疑応答～5分休憩～

### 第二部 演題発表（座長 早瀬明美・スライド 中村真由美）

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 6. ヘパリンNaカット時間の検討               | ○小山絵里 |
| 7. 新しい血液回路の考案                   | ○藤原三郎 |
| 8. 透析収益の現状                      | ○河内美子 |
| 9. 当院通院患者の病識調査                  | ○浜野涼子 |
| 10. 岡山市健康診査の考察                  | ○武下昌広 |
| 11. システム変更に伴う Konica-EX システムの評価 | ○橋本雅章 |
- 質疑応答～5分休憩～

### 第三部 演題発表（座長 岩崎公子・スライド 曾我幸子）

- |                           |        |
|---------------------------|--------|
| 12. 食事に関するご意見・ご要望         | ○木村幸子  |
| 13. 残菜率の検討                | ○向井恵子  |
| 14. 体格から見た栄養所要量・摂取量に関する考察 | ○森山 淳  |
| 15. 細菌検査に関する考察            | ○佐藤美和子 |
| 16. 保存期慢性腎不全～栄養指導を振り返る～   | ○佐藤美和子 |
- 質疑応答～院長講評

閉会挨拶～解散～

## 演題 1

### 絶飲食患者の効果的な口腔ケアを検討して

病棟看護部 ○島 章子 山口尚則

#### 【はじめに】

経管栄養の患者の場合、口腔内の汚染度が高く細菌が増殖しやすい。今回、カテキン作用に着目し、口腔ケアに取り組んだ結果を報告する。

#### 【目的】

口腔内を清潔に保つ。口腔ケア時における苦痛の緩和。

#### 【方法】

紅茶・麦茶・緑茶を各一週間ずつ、1日3回口腔ケアを実地。独自で作成した評価表で、病棟スタッフが評価。口腔内の細菌も検査した。I氏にも実地し舌状態を観察する。

#### 【結果】

口臭に関しては、紅茶が一番有効であった。麦茶では効果はなかった。緑茶では、徐々に口臭が減少した。乾燥はあまり効果がなかった。サリベートを噴霧した時には軽度浸潤していた。痰のこびりつきは、ケア後は消失しているが時間と共に付着がみられた。常在菌は徐々に減少した。

#### 【考察】

個々の患者の生活習慣を理解し口腔内の状態を見ながら使用物品の選択、回数、方法など考慮する事が必要ではないか。

## 演題2

### キシロカインスプレーによる穿刺痛緩和の試み

看護部 ○小川恵子 石原由紀子

#### 【目的】

皮膚症状により、ペンレスを貼用できない患者の穿刺時の疼痛緩和を図る。

#### 【方法】

透析患者15名を対象に、穿刺約15分前にキシロカインスプレーを噴霧、穿刺後対象患者に疼痛の度合・皮膚症状についてのアンケート調査を行った。

#### 【結果】

ペンレス使用者5名中3名は疼痛緩和が得られなかったが、ペンレス不使用者5名は全員疼痛が緩和したとの回答であった。発赤や搔痒感などの皮膚症状は、ペンレス貼用にて出現する患者も含め、全員が現れなかった。

#### 【考察】

アンケート調査の結果から、キシロカインスプレーも、疼痛緩和に有効と考えられた。また、皮膚症状が全員に現れなかったことから、皮膚が敏感な患者にも使用可能と思われた。薬剤が浸透するまでに、15分程かかるため待ち時間が長いという意見もあるが、今後希望者には使用を検討していきたい。

## 演題3

### 透析室ってきれい？（床・シューズ編）

看護部 ○荒川治美 井上理恵

#### 【目的】

- ・透析室床やスタッフのシューズ底には、どのような細菌がいるのかを知る。
- ・掃除、マキシマの効果を知る。

#### 【方法】

透析室スタッフ10名のシューズ底と床を6日間カウンターをはさんでスタッフ側、ベッド側に分け寒天培地で採取する。

#### 【結果】

シューズ底や床からは皮膚常在菌、土壌細菌など少数だが、*Stenorophmonas maltophilia* は多数検出された。

#### 【考察】

透析室では、様々な細菌が検出されたがほとんど皮膚常在菌、土壌細菌であった。掃除前に検出されたMRSA・*Stenorophmonas maltophilia* は、掃除後には消失していた。しかし、掃除前には見られなかった細菌が掃除後検出されていることがありスタッフのシューズ底から持ち込んだ可能性もある。

## 演題 4

### サプリメントに対する認識

看護部 ○浜田恵美子 中村真由美

#### 【目的】

透析患者のサプリメント、健康食品（以下、サプリメント）の使用状況、認識等を把握し、患者への情報提供に役立てる。

#### 【方法】

- ①透析患者38名に対し、サプリメントについてのアンケート調査を実施
- ②アンケートより、希望者に透析患者が使用する上での注意点をまとめたものを配布

#### 【結果】

アンケート調査の結果、サプリメントを使用したことがある、現在使用していると答えたのは16%と少なかった。サプリメントの内容としては便秘解消、血液さらさら効果、滋養強壮などの効果が期待できるものを使用していた。

#### 【考察】

透析患者にとって、サプリメントのすべてが副作用のある悪いものとは決めつける根拠はなく、そのために今後スタッフも新しい情報を察知し、認識していく必要があると考える。そしてその情報をよりよい形で患者へ情報提供していきたい。

## 演題5

### ベッド周囲の環境整備により作業の効率化を図る

看護部 ○中島理江 早瀬明美

#### 【はじめに】

ベッド周囲の環境整備は、患者の快適な透析環境を守る上で、大切なことはもとより、作業の効率化を図るうえでも重要である。

#### 【目的】

- ・ 環境整備することで快適な空間作りをする
- ・ 物品を整理し作業の効率化を図る

#### 【方法】

- ・ 現状の問題点を明確化する
- ・ 物品整理用のサンプルを準備する
- ・ シュミレーションし検討する

#### 【結果】

収納棚の使用により、オーバーテーブルおよびTV台の上はすっきりと整理され美観も良くなったが、作業効率に関しては各々の意見があり改善の余地が残された。

#### 【考察】

以前、物が散乱した状況から考えると物は整理でき清潔感もあって良いとのp t側からの意見もあり作業能率は良いと思う。またp t側の意見としては、薬入れなどは良いとの意見が聞かれた。サンプル品ではサイズが適当な物が無く間に合わせで使用しているため今後、スタッフと相談しながら検討する必要がある。

## 演題6

### ヘパリンNaカット時間の検討

臨床工学科 ○小山絵里 藤原三郎

#### 【目的】

ヘパリンカット時間を現状の透析終了30分前から60分前に変更することにより、ヘパリンの減量を試みたので報告する。

#### 【方法】

維持透析患者10名を対象に、ヘパリンカット時間変更前後でのAPTT値を測定し、比較検討した。また、ヘパリン量とAPTT上昇率の関係、止血時間、透析終了時の回路内残血の有無を比較検討した。

#### 【結果】

すべての対象患者においてヘパリンカット30分前・60分前共に、開始時よりも終了時APTTは高値を示した。また、ヘパリン量とAPTT上昇率に相関は見られなかった。止血時間に大きな変化はなく、透析終了時の回路内残血は認められなかった。

#### 【考察】

開始時よりも終了時APTT値の方が高値を示したことから、ヘパリン効果が続行されていると考えられ、ヘパリンカット時間を透析終了30分前から60分前に変更可能と思われた。

## 演題 7

### 新しい血液回路の考案

臨床工学科 ○藤原三郎 小山絵里

#### 【目的】

安全性・操作性に優れた血液回路を製作し、院内感染防止、また透析業務の効率化を図り、今後の透析医療に役立てる。

#### 【方法】

今回製作した血液回路を実際に使用し、従来の血液回路と安全性・操作性を比較検討した。さらに今後の改良が必要か検討した。

#### 【変更点】

各接続部をロック化した。ラインにクランプを取り付けた。トランスデューサ保護フィルタを回路に取り付けた。エアートラップチャンバの形状を変更した。透析返血操作・薬液注入・採血をニードルレスで行えるようにした。

#### 【結果】

穿刺針以外の針の使用がなくなった。保護フィルタのディスポ化やペアンの減数により、患者の共有物が減少した。ラインの接続が確実になった。

#### 【考察】

安全性は針刺し事故、感染防止において確実に向上したと思われる。操作性は透析業務における手順の変更は必要だが、全体的には簡素化されたと思われる。

## 演題8

### 透析収益の現状

医事課 ○河内美子 近藤延江 森山明子 曾我幸子

#### 【目的】

透析利益が現在どのくらいなのかを調査し、スタッフ全員に把握してもらうこと。

#### 【方法】

透析の処置項目について

- ①診療点数（手技・薬剤料）を計算
- ②使用薬剤・材料の納入価の調査
- ③臨時使用薬剤の利益を計算

$$\text{透析粗利益（円）} = \text{①} \times 10 - \text{②} + \text{③}$$

#### 【結果】

合計点数は透析より透析濾過の方が高くなっていたが、結果的に利益があるのは透析の方だった。

#### 【考察】

今後の診療点数改正により、透析に包括される薬剤が増えると透析濾過の方が上回る可能性がある。

包括薬剤は、毎月の使用量を把握すれば利益の予測がつくと考えられる。

## 演題9

### 当院通院患者の病識調査

外来看護部 ○浜野涼子 岩崎公子 清水深雪

#### 【はじめに】

当院の通院患者は長期治療を要する慢性疾患患者が多く、どの程度病気について関心を持っているかを知り今後の外来看護業務の改善に役立てる。

#### 【目的】

病識調査を行い今後の外来業務に生かす。

#### 【方法】

病識調査のアンケートを作成し、どのくらい病気について理解があるか、又不安の程度はどれくらいかを調査する。

#### 【結果】

当院の患者は高血圧症の方が多かった。自分の病気をどのくらい知っていますか？に対しては、【だいたいわかる】という回答が多かった。病気について知りたい事は？に対しては食事・運動療法・薬の事を知りたいという回答があった。

#### 【考察・結語】

メディアの影響で誤った知識を得る事もあるので、外来での指導が重要と考える。アンケートの何を知りたいかの回答に基づき、日常生活面に重点をおいたパンフレットを作成し設置していく。

# 演題10

## 岡山市健康診査の考察

事務長 ○武下昌広

### 【目的】

岡山市健康診査(以下、市健診)の受診状況を調べ、今後の増患対策の参考とする。

### 【方法】

平成13年から17年までの5年間の基本健診、胃・大腸・肺がん健診の受診者数の推移、項目別の受診者の割合を調べた。

### 【結果】

受診者数は、各項目とも14年に大幅に減少し、逆に15年には大幅に増加、以降は大きな変動はなかった。受診者割合は、多い順に基本、肺、大腸、胃であった。

### 【考察】

延べ受診者数は、15年以降は外来診療報酬と比例していることから、外来患者数との密接な関係がうかがえる。受診者割合では、胃は、予約制、絶飲食等が、大腸は2回の便採取の手間が割合低下の要因ではないかと思われる。

### 【結論】

市健診収入は、昨年度で約350万円と外来収入では大きなウェイトを占めている。今後も積極的な声掛け等で、より多くの患者へ受診喚起を促していく必要がある。

# 演題 1 1

## システム変更に伴うKonica-EXシステムの評価

放射線科 ○橋本雅章

### 【目的】

従来Systemと比較した、新Systemを画質の面から性能を評価する。

### 【方法】

- ・ CONTROL STRIPを使い、現像Systemの性能評価をする。
- ・ アルミ階段を使い、Film-Screen Systemについて性能評価する。
- ・ 臨床写真について、両Systemを比較検討する。

### 【結果】

- ・ 現像Systemは新システムの方が優れていた。
- ・ 胸部X線写真では肺野血管影の描出には優れていたが、高圧撮影にて撮影する必要がある。
- ・ 胸部X線撮影の被曝線量が約30%程度軽減出来た。
- ・ 一般撮影領域においては画質の向上が見られた。

### 【考察】

従来使用してきたKodakと今回採用したKonica社を比較すると、後者の方が全体的に優れているという結果が得られた。

## 演題 1 2

### 食事に関するご意見・ご要望

栄養科 ○木村幸子 向井恵子

#### 【目的】

透析患者の嗜好を把握し、献立改善の資料とする

#### 【対象】

透析患者 33名（入院2名 外来透析31名）

#### 【方法】

以下の項目についてアンケート調査を実施し集計した。

- ① 味付の全体的な印象
- ② 味付の改善要望
- ③ 食塩制限の調理の工夫
- ④ 当院の食事を家庭で参考にしているか

\* さらに過去のアンケートを用いて現在までの推移を振り返った。

#### 【結果】

- ① 「良い・普通」と答えた人が8割以上だった。
  - ② 「改善してほしい」と答えた人は昨年より減少した。
  - ③ 改善案を示す人はいなかった。
  - ④ 「参考にしている」と答えた人は12名だった。
- \* 自由設定の質問から得た回答の中で改善できていない項目があった。

#### 【考察】

- ① 現状で適正と考えられる。
  - ② 減塩食が受容されていると思われる。
  - ③ 現状の工夫でよいと思われる。
  - ④ 食事療法の媒体として説明が必要と思われる。
- \* 今後の課題のひとつに行事食の認知度改善が挙げられた。

# 演題 1 3

## 残菜率の検討

栄養科 ○向井恵子 森山 淳

### 【目的】

新献立の残菜量を把握し、残菜率の推移を検討する事

### 【対象および期間】

外来透析患者

05年5月23日～06年8月13日までの2サイクル

(基本献立+新献立 → 新サイクル：56献立)

### 【方法】

外来透析患者を月曜組と火曜組に分け、新献立の残菜率の推移を検討した。  
新献立改善による残菜率の変化を検討した。

### 【結果】

外来透析患者における新献立の残菜率は、月曜組14%、火曜組6%であった。新献立の2回目実施時における残菜量の低下率は、月曜組で63%、火曜組で54%であった。改善を行った献立は、各組共に平均残菜率を下回っていた。

### 【考察】

改善及び実施回数を重ねることで、残菜率の低下した献立が多い事を認知する事が出来た。

このことから、献立の改善を行った事で、患者に受け入れられやすい内容に近づけていると思われる。引き続き、患者の嗜好に合った食事を提供出来るよう検討していきたい。

## 演題 1 4

### 体格から見た栄養所要量・摂取量に関する考察

栄養科 ○森山 淳 佐藤美和子

#### 【目的】

透析患者の食事摂取量が栄養所要量に見合っているか調べる

#### 【対象】

外来透析患者 1 2 名（月組昼 4 名 月組夕 5 名 火組 3 名）

#### 【方法】

H18 年 8 月の身長を基に標準体重を算出

標準体重を基に基礎代謝量を算出

外来透析患者の生活内容を聴取し生活活動レベルを調査

基礎代謝量と生活活動レベルを使用し Ene 量を算出

標準体重から Pro 量を算出

3 日間の食事記録結果と栄養所要量を比較

#### 【結果】

Ene、Pro 共に摂取量が適正な患者は 5 名だった。

Ene、Pro 共に摂取不足の患者は 5 名だった。

Ene、Pro 共に過剰摂取の患者は 2 名だった。

#### 【考察】

Ene 摂取不足の患者が多く、十分な摂取に対する知識は浸透出来ていない事がわかった。

今回の調査を実施したことで、Ene、Pro 共に摂取コントロールの不良だった 7 名の患者に対し具体的な指導を行うことが可能になった。

# 演題 15

## 細菌検査に関する考察

栄養科 ○佐藤美和子 向井恵子

### 【目的】

細菌検出状況を把握し清掃・消毒方法改善の資料とする

### 【方法】

スタンプ検査と落下細菌検査の細菌検出数について採取場所別に比較  
(期間 ' 01. 1 ~ ' 05. 12)

### 【結果】

スタンプ

(CNS)

細菌数 10~30 個未満

食堂ドアノブ 職員出入口ドアノブ外 コンロコック 食品戸棚  
食堂洗面台

細菌数 30~100 個未満

水道蛇口 炊飯器スイッチ 食品戸棚 鍋置き台

(Bacillus sp.)

細菌数 10~30 個未満

食器棚扉 食堂洗面台

細菌数 10 個以上の内

- ①陰性と 30~100 個未満検出を繰り返す
- ②ほぼ毎回 10~30 個未満検出
- ③CNS と Bacillus sp. の両方検出に分かれた

落下細菌

細菌数 1~10 個未満または陰性

### 【考察】

スタンプ検査で検出されている。

人の手が触れる・床に近い・外部から食品が持ち込まれる場所の清掃・消毒が重要である。

細菌検出後、清掃・消毒方法を変更した場所の検討が課題となった。

## 演題 16

### 保存期慢性腎不全～栄養指導を振り返る～

栄養科 ○佐藤美和子 木村幸子

#### 【目的】

保存期慢性腎不全患者の栄養指導実施後の検査データと栄養摂取量を振り返り今後の指導に活かす

#### 【対象】

1 症例：栄養指導回数 外来6回・入院1回 計7回（期間 H17.7～ H18.4）  
指示量：エネルギー 2000kcal 蛋白質 30g 食塩 6g

#### 【結果】

（栄養指導後の経過）

BUN・Cr：指導実施後、一時期低下傾向

Ht：透析開始直前にさらに低下

Ca・K：大きな変化なし

P：少しずつ上昇

摂取エネルギー量：不足状態が続いた

摂取蛋白質量：指示量 30g に近づいた

摂取食塩量：約 6g で変わらなかった

#### 【考察】

栄養指導を継続して受けたいとの要望のあった患者に接する機会を得た事で栄養指導実施後の検査データと栄養摂取量を振り返る事が出来た。

保存期慢性腎不全患者の食事療法では蛋白質制限によるエネルギー不足を補う取り組みが課題となる事が再確認された。今後の指導に活かしたい。